

## 一度は見ておきたい重要文化財シリーズ

京都の旅編  
その1



今回は「一度は見ておきたい重要文化財シリーズ」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介します、その魅力に迫っていきます。

観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を感じ、目でゆしみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

### 石清水八幡宮五輪塔(京都府八幡市八幡高坊)

石清水八幡宮五輪塔は、高さが6m以上ある日本最大級の石塔です。大阪府境にも近い八幡市の、男山(おとこやま)頂上に鎮座する石清水八幡宮(いわしみず はちまんぐう)。その御旅所として知られる頓宮(とんぐう)から西側に200メートルほどの場所、京阪石清水八幡宮駅から南へ徒歩5分ほどのところにあります。



空

風

火

水

地

### 五輪塔とは

五輪塔は平安時代に誕生したといわれる墓石デザインです。上段から「空輪」「風輪」「火輪」「水輪」「地輪」と呼ばれる墓石があり、それぞれ自然の五大元素を評しています。

#### お墓のデザインはどんなものがある？

五輪塔の他、お墓のデザインに関する記事がございますので、ぜひご覧ください。



### 特徴

花崗岩(かこうがん)製で、塔高約6m、地輪幅約2.4m。日本最大級の石塔です。下から、基壇は一辺が約3.2mある反花座(かえりばなざ・蓮華の花が開き外側の花弁が反り返った様子が彫られた台座)。彫られた花弁は幅58cm

の広い単弁です。

地輪は一辺が約2.4mあり、数個の石材が組み合わされています。水輪は背が低く安定感のある球形、火輪は軒が厚く端へ向かう反りが力強く感じられます。風輪は深めの鉢型、空輪は美しい宝珠の形をしています。塔全体の均整と造詣の確かさが見てとれ、見事な石工の技を感じられます。

## 歴史



かつて、石清水八幡宮頓宮のある場所に宮寺（みやでら／神社と寺院を一体と考えていた時代に神社に付属して置かれた寺院）として建てられていた極楽寺の境内に建立されたのが、石清水八幡宮五輪塔です。寺は廃寺となり、この石塔だけが残されました。

建立された経緯や作者については諸説あり不明確ですが、一説によると、平安時代の末期、宋（中国）と貿易をしていた尼崎の商人が、石清水八幡宮に祈り海難を逃れたため、その感謝の証として建立したと言われています。

このことから航海安全の祈願に人が訪れるようになり「航海記念塔」とも呼ばれています。

なお、1899年2月19日に国の重要文化財に指定されました。



## 周辺の観光情報

石清水八幡宮五輪塔の周辺には、紅葉の名所でもある神應寺（じんのうじ）、「徒然草」に登場する高良神社、石清水八幡宮の年に一度の祭礼の際の御旅所となる石清水八幡宮頓宮などがあります。

石清水八幡宮の一ノ鳥居前から右へ道なりに行くと神應寺（じんのうじ）山門が、その左側に石清水八幡宮五輪塔が見えてきます。

### 交通アクセス

〈鉄道〉京阪電気鉄道京阪本線・石清水八幡宮駅から徒歩5分

〈自動車〉京都・名古屋方面から：名神高速・瀬田東JCTあるいは第2京阪道路から京滋バイパス「久御山・淀IC」

神戸・大阪方面から：名神高速道路「大山崎IC」



## まとめ

今回は、京都府にある石清水八幡宮五輪塔をご紹介いたしました。石塔とその土地に刻まれた歴史に触れると、何百年も遡ったその時代に確かに生きていた人々の息遣いを感じることができます。

また、世の中の安寧を祈り、人に感謝し、故人を偲ぶ思いの強さが、確かな造形を残している石工の技術とも深く関わっているのだらうと思わずにはいられません。